



ふなはし

議会だより

特集！舟橋村の子育て

No.28/12月議会号

令和2年2月吉日発行



目次

特集 舟橋村の子育て支援を考える	2～5
一般質問	6～8
用語の解説	9

議案の説明、富山県東部消防組合議会・12月臨時議会報告	10
常任委員会質疑応答	11
傍聴案内、あとがき	12

舟橋村の子育て支援を考える

～事業が効果的に実施されているか～

日本は今、過去に例のない少子高齢化・人口減少の時代を迎えています。全国各地で様々な人口減少への取り組みが行われる中、舟橋村でも「子育て共助のまちづくり」により人口構造を維持しようとする取り組みが行われています。今回の特集では、広報委員会のメンバーが村内の皆さんへ総力取材。インタビューを通じて舟橋村の子育て環境の現状を見つめました。



「子育て共助のまちづくり」

果たしてその現状は？

「子育て共助のまちづくり」は何のために？

左のグラフにあるように、舟橋村は平成に入ってから、人口が倍増しました。大きな要因は、村内各地で多くの宅地開発が進められたことによるものです。

一方で、平成25年度に村が独自に行った将来推計では、舟橋村でも人口減少や少子高齢化の進展は避けられないとの分析がなされたことから、「子育て世代の計画的な転入促進や出生率の向上」を図

「子育て共助による地方創生！」

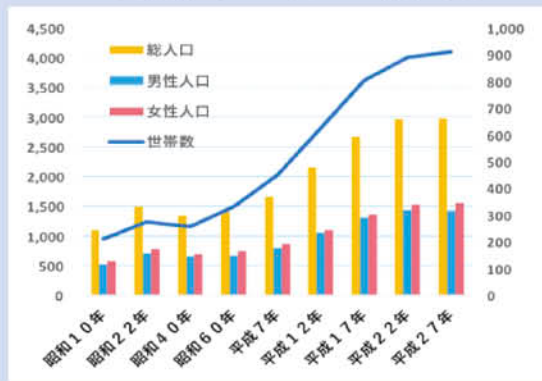
村は、平成27年に村の地方創生事業を定めた「舟橋村総合戦略」を策定しますが、この大きな柱となったのが「子育て共助のまちづくり」でした。

「5年目を迎えた地方創生」

「子育て共助のまちづくり」による地方創生事業は、今年度5年目を迎え、これまでの取り組みに対する事業検証が行われる予定です。



▼国勢調査による人口・世帯数の推移



村内各地で行われた宅地開発により、村の人口が倍増しました。

このようなコンセプトのもと、舟橋村の地方創生は、「支え合い」により、安心して子育てができる地域をつくるのが大きな目標となっています。

いまちづくりを目指すというコンセプトです。

この総合戦略に基づき、認定こども園や子育て賃貸住宅、リフトアウトふなはしなどのハード整備、ICT技術を活用した新たな子育てサービスの導入などが行われてきました。

村の子育て支援事業は、オレンジパークでの取り組みが「国土交通大臣賞」を受賞するなど、村内外から評価の声がある一方、村議会には、「子育てアプリ、お金がたかさんかっているみたいだけど、大丈夫？」などと、懐疑的な声も届いています。

今回、議会広報特別委員会では、村の取り組みに対する生の声を伺いましたので、皆さんにその模様をお伝えいたします。



リフトアウトふなはしには、自治体関係者も多数視察



「さくらんぼくらぶ」
これからママたちが
「ほっ」とできる場を



『さくらんぼくらぶ』

平成15年、親子が気軽に集まれる場を作ろうと誕生。「さくらんぼくらぶ」の皆さんは、村の子育て支援センター「ぶらんこ」を拠点に活動しています。インタビューでは、「ぶらんこ」の活動状況についてもお話を伺いました。



皆さんの活動について お聞かせください

村の母子保健推進員の活動の中で、舟橋村にも子育て中のママさん同士が情報交換できたりする場が必要だなと感じて立ち上げました。私たちの目的は、ママたちがホッとできる場をつくること。ママたちの気持ちに寄り添いたいという気持ちを一番に活動しています。

やりがいを感じるのは どのようなときですか

参加した皆さんから「楽しかった」と言ってもらえることや、皆さんの笑顔が活動の源になっています。立ち上げ当初から、無理せず、ふんわりした雰囲気での活動できているので、長続きしています。最近の若いママたちのエネルギーは凄くて、体がついていかないときもあります（笑）。それでも活動が私たちの生きがいでもあって楽しんでいます。

皆さんのイベントや、 「ぶらんこ」には村外の方も 多く参加・利用されています

「ぶらんこ」は、スタートする時に「利用者を村民に限定しないこと」をコンセプトにしました。村内のママたちも、自由に村外の子育て支援センターを利用したり、イベントに参加したりして、自分の居場所を見つけています。それに、私たちの活動をお手伝いしてくださっているママには、村外の方もたくさんおられ、その方たちがいなければ私たちの活動が成り立ちません。これからも、いろいろな方々とお互いに助

け合って活動していければと思っています。

企画されるイベントは 毎回大盛況です

ママたちがどのようなイベントを求めているか、私たちではなかなか掴みきれません。そこで、「じゅにあボランテア（通称じゅにあさん）」を立ち上げて、子育て中のママさんに企画の場に入ってもらっています。皆さん上手くニーズを掴んでくれていて感心します。じゅにあさんには、いろいろな得意分野を持った方がおられ、ハンドベル演奏や、ホームページの更新をお願いしたりしています。皆さんとても楽しそうに取り組んでくれています。

今後の展望を お聞かせください

私たちの活動は、参加者の数より、来てくださるママがゆったりできる場所であればそれで良いと思っています。

時代と共に活動の形は変わるかもしれませんが、私たちが同じ思いの人がいて、それを求めるママがいれば、これからも活動を継続できると思っています。今後も今までと同様、自由に、のびのびと活動させていただければ幸いです。



▲ベビーマッサージの様子
「ぶらんこ」で開催するイベントは、毎回多くの親子連れでにぎわいます。企画には、子育て中のママも参加。

子育て支援賃貸住宅

リラフォート
ふなはし

昨年9月に完成した「リラフォートふなはし」子育て共助」をコンセプトに作られました。家賃の割高感など、全戸入居に向けた課題が議会からも指摘される中、昨年10月から入居されているお二人に、住み心地や村のコンセプトなどについてお話を伺いました。



― 舟橋村の印象はいかがですか ―

樋渡さん(写真左上)

舟橋村が子育てに優しい村だと聞き、入居を決めました。息子(小3)も先生やクラスメイトに良くしてもらい、学校生活が楽しいと言っています。私もここでの生活を楽しまたいと思っています。

柘田さん(写真左下)

教育環境のことを考え、のんびりとした雰囲気の良いと思い入居しました。『ぶらんこ』や『ごどもきち』の皆さんも優しく接してくれ、舟橋村へ来て良かったと感じています。何か困って声を上げた時は手助けしてくれるという期待感を感じています。

― 「子育て共助」についてどのようにお考えですか ―

柘田さん 以前の住まいでは、地域との関わり合いもあまりなく、子育てする中で孤独を感じることもありました。子育て共助のコンセプトを知った時、涙が出ました。

樋渡さん 入居者同士が顔を合わせることがなかなかないため、先日、入居者懇親会を行いました。「困ったときは、お互い様だから声を掛け合いましょうね」「そつだよね、よろしくね」と、顔を合わせながらお話しできたのが良かったですね。

― 村の「子育てアプリ」は使ってみていかがですか ―

柘田さん 情報はいろいろ入ってきていますが今は小さい子どもたちの子育てで手いっぱいなことあり、じっくり使う時間が取れないのが現状です。

― 舟橋村への要望など ―

柘田さん 子どもに食べさせるものに気を遣っています。村産の農作物を身近な場所で買うことができればありがたいです。

樋渡さん 先日、図書館方面に出かけたところ、お食事の前で野菜が売られているのを見て嬉しかったです。

子育て世帯

村上さんご夫婦



昨年8月に第1子が誕生し、現在子育て真っ最中の村上ご夫妻にインタビュー。お二人は共に村外のご出身。舟橋村に住まいに選ばれた理由や、村の子育て環境などについてお話を伺いました。

― 舟橋村を選ばれたポイントは ―

まず電車や幹線道路へのアクセスが便利だったところです。スーパーなども近くにあり便利だなと思いました。静かな環境で生活できていてとても気に入っています。

― お二人は村外のご出身です、困りごとなどがあつた場合どのようにしておられるのですか ―

両親が遠方にいるということもあり、夫が積極的に子育てに関わってくれています。相談は、役場の保健師さんや、親や産院にしています。

富山市にある「まちなか産後ケア」など



も利用していたのですが、月齢の利用制限があるため、もう少し長く利用させてもらえるようになればありがたいです。

また、村では、子育て中のママたちが利用できる色々なサービスがあるようなのですが、内容や利用時間、利用料金などが一目で分かるものがあれば嬉しいですね。

― 子育て支援センター「ぶらんこ」など、村の施設を利用されたことはありますか ―

子育てに掛かりきりになっているため、なかなか外に出る余裕がないのが現状です。今は、少しの時間でいいので子どもを預かってもらえるような場所があれば助かります。

村内に子育てに係る施設があることは何となく知っているのですが、そこが誰を対象としていて、何をやる場所なのか、良く分かっていない状況です。

― 村の「子育てアプリ」をきめ、どのような情報が発信されれば良いと思われますか ―

アプリはときどき閲覧しています。今後は子育て中のママでも、得意分野を活かして在宅ワークができるような情報などを発信してもらえるといいですね。

村内ではたくさんイベントが行われています。そのイベントの良さなども発信されれば、私たちも参加してみたいと思うきっかけになると思います。例えば、参加した方の声や、イベントの動画配信などがあると、皆さんに分かりやすく伝わるのではないのでしょうか。



親の経済的負担は少なくなっただけ、人間関係が希薄化しているのでは

今の子育て環境は、国の支援が手厚く、ハード面の整備や保護者の経済的負担が軽くなっており、恵まれていると思います。ただ以前に比べ、核家族化や少子化の進行で人間関係が希薄化して、人と人とのつながりが軽視されている感じで地域での人との連帯感がなく、住みづらくなっているのではと感じます。

昔は、地域の皆さんが子育て支援団体だった

子育て中の困りごとには、親と同居している方は、親が協力してくれ、地域の方も顔が見えていると気軽に協力していただけました。今のように子育て支援団体はありませんでしたが、私たちの頃は地域の方々の支援がありました。

私たちは
こう思います



住み心地は非常によい

コンパクトな地勢の中で、小中学校等の文教地区がまとまっており、教育環境が整っています。そして、電車の本数も比較的多く、富山駅まで20分足らずで到着することから利便性も高いと思います。また、宅地開発は進んでいるものの、周囲は主に農耕地であり、視界を遮る高層建物が少ないことから、眺望が利き、精神的なやすらぎを感じられる村です。

私の住む地区には転入者を受け入れてくれる環境があった

私の住む地区は、元の住人同士のコミュニティが形成されている中で、転入者を受け入れていただける雰囲気もありました。日々の会話や地域の活動に転入者が参加しやすく、新たな人間関係を築きやすい環境であったと思います。

転入直後は、ご近所の皆さんに相談相手になっていただいたり、地域の皆さんからのお誘いで、各団体・行事に参加することで、地域でのご縁が広がりました。

共働き世帯が安心して働けるよう、一層の保育環境充実を

今は、核家族で共働き世帯が多く、利用しやすい病児保育、病後児保育施設や、休日や平日の夜間でも保育ができる施設があれば、安心して働けると思いますので、一層の保育環境の充実を望みます。

「ぶらんこ」の村外利用者には舟橋村をPRする仕組みを

子育て支援センターは、県内全市町村に整備されていて、居住地に関係なく利用できる施設ですが、「ぶらんこ」は村外の方の利用が非常に多く、村内の方が気軽に利用する事が出来ていないという声を耳にします。

ただ、舟橋村を知って頂く良い機会になっています。舟橋村のいろいろな情報を出したり、村の特産品を購入してもらったり、飲食店等を利用してもらい、村にお金を落としてもらえらる仕組みづくりも考えていっていいのかなと思います。

「元」子育て世代の皆さん

にも聞いてみました

取材を振返って

今回、議会だよりの特集として、村が総合戦略の一環として施策に力を入れている子育てをテーマに取り上げました。議会の広報委員会として村民の皆様にご子育てへの関心を持っていただき、子供は社会にとって大切な宝であるという認識と共に地域一体となった子育てに理解と協力があれば今の社会が抱える少子化という問題に、我々が住む小さな村でも歯止め的一端を実現出来るのではないかと思います。この挑戦に皆さんに参加いただき、共助の足掛かりを築くことを願う次第です。

議会では、今後も子育てについて注視しますので、皆さんの忌憚のないご意見をお願いします。



議会広報特別委員会
竹島委員長

杉田雅史 議員



Q リラフォートふなはしの入居促進に向け、家賃見直しを強く要望する

A 入居者が少ない状況であるが、家賃の値下げは難しい

Q ふなはしむら健康構想の結果を問う

A 身体的健康度合に大きな変化はない。中間評価は総合戦略に合わせて実施する



質問 これまで各種施策を行い、入居者増加の努力を行ってきたというリラフォートふなはしについて

・現在の入居者数及び申込者数はどうか
・募集説明会や募集委託による効果はどうか
・家賃補助制度等の効果はどうか
入居者の意識・気持ちに寄り添い、家賃設定を見直すよう強く要望する。

答え 現在の入居者数は7戸、6回目の募集期間中の新規申込者はなかった。不動産会社への募集委託や内覧会、都内で行ったU・Iターンイベント等の反応は良いものの、入居に結び付いていない。一定の入居者確保のため家賃減額制度を設けている。家賃値下げについては、「頼り合える安心感」を商品としていることから実施が難しい。

質問 「ふなはしむら健康構想」のうち、一般の方々がイメージする身体的健康度合は過去に比べ上昇しているか。また、平成29年度行うはずであった健康構想の中間評価の結果は出たか。

答え 一部疾患について改善傾向がみられるが、経年的には大きな変化がなく、今後とも健康維持・増進に向け取り組んでいきたい。ふなはしむら健康構想の目標は、別に村が定める来年度事業検証を行う「総合戦略」と同じであることから、評価は総合戦略の検証に合わせて実施することとしている。

良峯喜久男 議員



Q 新設された道路に街灯を要望する

A 来年度計画で設置する

Q 高齢者対象の医療状況調査の分析、対応方法を問う

A 現在結果を分析中、今後十分な協議を重ねる



質問 ばんどりパトロール隊からの報告を受け、リラフォートふなはしからオレンジパークふなはし駐車場までに街灯の設置をお願いする。

答え 沿線は、認定こども園のほか、リラフォートふなはしや学童保育施設も隣接する「子育て共助のモデルエリア」に位置することから、周辺の防犯対策の必要性を強く感じしており、来年度、ソーラー充電式LED灯の設置を予定している。

質問 65歳以上の高齢者を対象に、保健師の出前による医療状況調査がなされたが、その結果の分析、対応策の検討はなされたか。

答え 対象の549名に、治療中の疾患名、通院医療機関、通院頻度、通院手段並びに服薬状況について調査を実施し、回収率は92%に上っている。今後分析結果を踏まえ、十分協議を重ねながら対策を検討する。

一般質問



A 本村の地方創生事業は、SDGsの理念に合致している

Q SDGs実現に向けた取り組みを考えているか

A 子どもたちが新たな時代で活躍できるように教育環境を整備したい

Q AI時代を見据えた教育を考えているか



古川元規 議員

質問 人工知能（AI）と共存共栄して未来の社会で活躍できる人材を育成することができなければ、子どもたちに明るい未来はありません。既存の教育内容に囚われない、新しい教育を実施していくことが必要であると考え、未来を見据えて今後はどのような教育を行うことを考えているのか。

答え 絶え間のない技術革新により社会が急速に変化していく中、子どもの「情報活用能力」育成のため、ICT関連機器等を計画的に整備している。AI時代を見据えて子どもたちが着実に力をつけて新たな時代で活躍できるように必要な教育環境を整えていきたい。

質問 これからの社会では、企業も行政も、必然的に持続可能な世界に考慮していく必要がある。それを踏まえて、舟橋村としても持続的に発展させていく必要があるが、富山市や南砺市に続いてSDGs未来都市への選定を目指した活動や、SDGs実現に向けた取り組みの計画は考えているか。

答え SDGs未来都市への選定を目指すことは難しいが、村は総合戦略の中で、民間企業の取り組みにより転入数や出生者数を維持する地方創生事業を行っており、双方の持続可能な経営を目指すことから、現在取り組んでいる本村の地方創生事業がSDGsの理念と合致していると認識している。



A 受診率が100%であることなどから実施の予定はない

Q 新生児聴覚スクリーニング検査の公費援助はなぜできないのか

A 舟橋村に住んでよかったと思われる福祉施策を講じたい

Q 医師不在と2025年・2040年問題への対応を問う



加藤智恵子 議員

質問 団塊の世代が2025年ごろまでに後期高齢者（75歳以上）となり、「超高齢社会」を迎え、医療費など社会保障費の急増が懸念される。

本村も将来を見据えて、地域医療・在宅診療に長けた医師・医療機関を誘致し舟橋村に根ざした医療機関として発展させていくなど舟橋村独自の診療体制の構築を提案する。

答え 2025年に75歳以上人口の割合が11%、2040年に65歳以上人口の割合が29%を超えるものと見込んでいる。今後の地域医療の在り方は、「医療状況調査」の分析結果から医療状況を把握した上で検討するが、医療・介護の両面から舟橋村に住んでよかったと思っていただけのような福祉施策を講じたい。

質問 先天性難聴は1000人に1人、2人生まれるとされる。生まれて入院中に検査し早期療育を開始すると6歳児（就学前）で健聴児と同じ位の言語力を獲得できている。検査料金は高くても1人あたり7千円、30人生まれても21万円。経済的負担軽減のための「地方交付税措置」がされている中でなぜ助成ができないのか？

答え 受診率が100%であること、医師会等との調整が必要になることなどから実施の予定はない。県新生児聴覚検査事業に係る協議会などが開催されていることから、今後実施に向けた検討は十分行う。

前原英石 議員



Q 早川誠一教育長に初心を問う

A 各分野でこれまでの経験を活かしながら、バランスのよい運営を行いたい

Q 除雪及び消雪対策の体制は万全なのか

A 体制に支障はないと考えているが、今後は人材不足解消が課題



質問 舟橋村の教育の現状について現時点でどのように感じておられるか？
教育長が、これから目指そうとしておられる、舟橋村の教育全般についての初心について伺いたい。

答え 10月の就任以来、学校教育、生涯学習、社会教育、生涯スポーツ、教育拠点施設、それぞれの分野の状況把握に努めてきた。いずれの分野でも効果的な活動が行われていることに、敬意を表したい。今後は、各分野の発展的な運営に向け、関係各位の意見を取込み、自身のこれまでの経験を活かしながら、職務に励みたい。

質問 昨年の冬に支障が出た除雪・消雪についての問題点・問題個所については解決されたのか？今年の積雪に対しては万全な除雪、消雪体制が整っているのか？中長期的な除雪・消雪などの雪対策を検討すべく、専門家も交えた除雪、積雪検討委員会を設置する予定は？

答え 各地の消雪装置の取水については、いずれも適切な水量を確保するなどしており、除雪体制に支障はないものと考えている。今後の中長期的な対策は、オペレーターのなり手不足や高齢化等による人材不足が課題となっていることから、全国の先進事例を収集しながら、本村にふさわしい方策を検討する。

竹島貴行 議員



Q 2025年問題、2040年問題を控えた村の課題への対応を問う

A 公助機能の低下が予測されることから共助機能の強化が重要



質問 団塊世代が75歳以上となり、医療・介護費などの社会保障費急増が懸念される2025年問題、そして高齢人口の3割近くが85歳以上となり団塊ジュニア世代も高齢者になる2040年問題を控え、高齢者世帯、独居高齢者、病弱高齢者、認知症、引きこもり、孤立高齢者、ゴミ屋敷等の課題に、村はどの様に考えるかを聞いた。

答え 個々の事情に即して、当事者、地元自治会、社会福祉協議等の関係機関と協議しながら最善の方法を検討する。一方、今後は税收減及び社会保障費の急増により行政機関の公助機能低下が予測されることから、共助機能が最も重要であると考えており、各自自治会でも地域コミュニティの在り方を協議の上、共助機能強化に努めてもらいたい。



用語の解説



このページは、本誌6～8ページ掲載の一般質問の中で使用された普段聞きなれない用語などを広報委員が解説するコーナーです。

「頼りあえる安心感」

ってなんのこと？

「頼りあえる安心感」とは、ひとりで子育てを頑張らなくてもいい、ここで出会った仲間と子育てをちょっと気軽に、ちょっと楽しく、「舟橋村で子育てするってちょっといいね」と感じてもらうことをいいます。

地域コミュニティの希薄化や核家族化が進み、「ワンオペ育児」などが社会問題化する中、舟橋村でも核家族世帯の割合が全体の7割以上となっています。このような中、ひと昔前まで当たり前にあった地域の皆さんに見守られながら子育てする環境や、お母さん同士のネットワークの中で子育てする環境に対するニーズが高まっています。

昨年9月に完成した子育て支援賃貸住宅「リファオートふなはし」は、子育てに困ったとき、子育てに悩んだとき、頼ったり相談したりできる人がいる、がコンセプトとなっています。



「2025年、2040年問題」

ってなんのこと？

「2025年問題 2040年問題」は、どちらも日本の人口に占める高齢者の割合が大きくなることや、人口減少による労働人口の減少により、今の社会保障制度を始めとする様々な制度の維持が難しくなる問題などを言います。これらの問題には、目先だけではなく、地域医療の充実による健康寿命の延伸、働き方改革などによる生産性の向上、子育て環境の整備などによる出生率の向上など、長期的な視点で考えることも大切になってきます。

	人口構成	主な問題点	主な対策
2025年問題 【5年後】	- 団塊の世代が75歳以上に - 国民の4人に1人が75歳以上となる「超高齢化社会」	医療・介護の社会保障費が急増	- 財源の確保（消費税率の引き上げなど） - 社会保障と税の一体改革
2040年問題 【20年後】	- 団塊ジュニア世代が65歳以上に - 総人口1億人のうち、4千万人が65歳以上人口	- 生産年齢人口の減少 1人の高齢者世帯を1.5人の現役世代が支える	- AIやICT技術の活用による労働力の確保 - 一層の疾病・介護予防策

団塊の世代(1947～49年生まれ)
団塊ジュニア世代(1971～74年生まれ)



解説：加藤委員

「SDGs（エスディージーズ）」

とは？

2030年を目標に国連が定めた持続可能な開発目標のことです。図のように17のゴールに向けて、誰ひとり取り残さないことを目指し、先進国と途上国が一丸となって達成すべき目標としています。これまでは各々の団体が独自の社会貢献活動をしてきましたが、他のゴールを侵害しないように、この世界共通の普遍的な規格に沿って、内外にゴールを明確にして、大きな視点に立つて政策の計画立案・実行していくことは、舟橋村のような小さな自治体でもメリットのあることであり、SDGs実現に向けた取り組みの検討を進めてもよいと考えます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



解説：古川委員

12月定例会に提出された議案は、以下の9議案です。



議案番号	議 案 内 容
40	村の臨時・非常勤職員について、改正地方公務員法及び地方自治法が定める会計年度任用職員として任用根拠や服務規程を明確化するとともに、常勤職員と同一労働・同一賃金下での給与・手当の支給を行う内容の条例を制定しました。
41	富山県人事委員会の勧告(令和元年度の公民格差解消)を受け、職員給与を民間給与との格差を解消するため、給与条例の一部を改定しました。※ 給与基準は、企業規模50人以上かつ1事業所50人以上の富山県内企業を対象とした平均給与を採用しています。
42	これまで、成年被後見人等の方は、印鑑登録ができませんでした。今後はこれらの方の権利が不当に制限されることなく意思能力に応じて、印鑑登録ができるよう印鑑登録に関する条例が一部改正されました。
43	簡易水道事業特別会計予算を3百万円増額補正の専決処分が為されました。老朽化による水道管更新工事が行われた舟橋地内や国重地内で、工事実施中に想定外の構造物等が出たため、これらに対応する工事費の増額が必要となりました。
44	令和元年度一般会計の歳入・歳出それぞれに、2,282万6千円追加補正し、予算総額を20億7784万7千円とするものです。補正の主なものは、会計年度任用職員制度導入に係るシステム構築費、後期高齢者医療広域連合負担金の精算、海老江地内水路改修費用、村道稻荷八幡川線消雪施設整備に係る費用です。
45	医療機関や薬局が、被保険者が加入している医療保険のデータをマイナンバーカードや保険証の窓口提示により確認できるようになるオンライン資格確認の仕組みが、来年度より導入されます。この仕組みに対応するため、整備補助金による委託費12万4千円を支出する国民健康保険事業特別会計予算の補正を行いました。
46	県道・富山上市線の給水管修繕工事費61万6千円と一時借入金の利子10万円を支払うため、簡易水道事業特別会計に、雑入61万6千円と消費税等還付金10万円を財源とする、71万6千円の追加補正を行いました。
47	平成30年度分・後期高齢者医療広域連合の納付金精算の結果、追加納付が必要となったため、後期高齢者医療事業特別会計に、一般会計からの繰入金482万7千円、雑入62万5千円、繰越金199万円を財源とする、744万2千円の追加補正を行いました。
【追加議案】 議員提出 議案第1号	住民の皆さんの身近な議会を目指し、幅広い世代の皆さんに議会への関心を高めてもらうことを期待し、議会傍聴規則の一部改訂しました。

富山県東部消防組合議会・12月臨時議会報告



住みよい舟橋村づくりに向けて問う



総務教育常任委員会

問 来年度から開始される会計年度任用職員制度では、どのように任用選考が行われるのか。(竹島)

答 現在の臨時職員が会計年度任用職員に移行するもの。選考は、面接や評価シート等による人物評価や資格等の確認により行う。2年目以降の任用や昇給は、人事評価により決定する予定。

問 補正計上されている財務会計システム、人事給与システム等の改修費用の財源や業務委託先は。(竹島)

答 今般の改修は、国からの補助がなく一般財源での対応となる。委託先は、システム構築・運用保守を委託している業者と随意契約を予定しているが、今後は県自治体クラウドへの参加など、費用低減に向け検討したい。

問 ハザードマップの進捗状況は。(良峯、竹島)

答 現在各種データ取込みが完了し細部を修正している段階で、完成は令和2年3月を予定している。完成後はタウンミーティング等を通じて周知を図りたい。

問 中新川に限定されているインフルエンザ予防接種費助成エリアの拡大を。(竹島)

答 現在、中新川郡医師会の協力の下に助成制度を実施していることや、富山市内の医療機関も制度の対象とする場合、関係機関との交渉が必要であることから、今後時間をかけて協議したい。



産業厚生常任委員会

問 水道工事について、当初設計の精度が低いいため各方面に支障を来している。(前原)

答 予測できなかった埋設物などの影響もあったが、今後は施工業者への過度の負担や道路の通行制限等に十分配慮する。

問 補正計上されている情報システム改修事業費の妥当性は。また国の補助率の違いは何か。(古川、加藤)

答 村の基幹システムは県内の自治体と共同調達することで改修費を抑えており、その他のシステムの改修も見積額を十分精査し契約することとしている。国庫補助の割合は、事業の緊急性などに応じて決定される。

問 国民健康保険システムのオンライン資格対応とはなにか。(古川)

答 マイナンバーを用いて、医療機関や薬局で健康保険証の資格情報をオンライン確認できるようにするもの。

問 入居促進のため、リラフォートふなはしにエアコンを設置してはどうか。(加藤)

答 エアコンは建設に係る国庫補助対象とならないことや、既に自費で設置した入所者もおられるため、今後も村では設置しない。

問 リラフォートふなはしの入居開始にあたり、地元自治会との調整は終わっているのか。(前原)

答 竹内地区の自治会長には、リラフォートふなはしの入居者から班長を1人選出する旨をお伝えした。竹内地区にはアパートが複数あるため、今後はそれらのアパートとの整合を図りながら自治会と調整していきたい。

< ふなはしむら子



おはよう、むら子さん☺
今日から村議会がはじまるんだけど
一緒に傍聴に行ってみない？
時間は **10時** からなんだって。



ちょっと村の議会
行ってくるけ！

おはよう、そうなんだ♪
議会って私も前から気になってた
んだよね。ぜひぜひ～☺
場所はどこで（'ω'）



役場の**3階**なんだって。
今日は「一般質問」といって村政
について議員さんたちが村長さんた
ちに質問する日だそうよ（^^）

どんな質問があるのか楽しみね☺
それじゃあ、役場の駐車場で待ち合
わせして一緒に行きましょう
（'・ω・'）ゞ

議会見に行ってみない？

3月定例村議会の日程

3月 2日(月) 午前10時 本会議(提案理由説明)
9日(月) 午前10時 本会議(一般質問)
10日(火) 午前10時 *総務教育常任委員会
11日(水) 午前10時 *産業厚生常任委員会
13日(金) 午後 2時 本会議(討論・採決)

本会議は役場3階の議場、常任委員会は2階委員会議室で行なっています。

*常任委員会を傍聴される方は、開始10分前までに1階総務課窓口で、受付をお済ませください。



ご存知ですか？議会のネット中継

舟橋村議会では、議場で行われる本会議をリアルタイム配信しています。舟橋村のホームページ

(URL <http://www.funahashi-village.stream.jfit.co.jp/>)

にアクセスいただき、是非ご覧ください。過去の中継も録画配信しておりますので、併せてご覧ください。スマートフォンからもご覧いただくことができます。



スマートフォンからは
こちら！

～議会だよりモニターを募集しています～ ご連絡は、議会事務局 TEL 464-1121 へ！

議会・議会だよりについて、みなさまのご意見・ご感想をお寄せください。

議会広報特別委員会
委員長 竹島 貴行
副委員長 加藤 智恵子
委員 良峯 喜久男
委員 古川 元規



4名の新たな顔ぶれでスタートした広報委員会。
アッ！という間に令和元年が終わり、新年を迎えてNO.28 12月議会号を発行することとなりました。前号に続き特集を組むことになり、今回は子育て支援についてです。支援する側、される側、そして、子育てを終えられた方に取材させて頂きその思いを村民の皆様にも少しでも伝えられたかなと思います。
今後皆様様の思いを伝える機会を設けて、特集を組み皆様に発信させて頂きます。これからも議会だよりにご期待ください。（良峯記）

あとかき

